

- 本県の森林産業を資源循環型産業に変革させるためには、地域の核となる人材づくりが求められている。また、従来の固定観念にとらわれずに、森林産業が抱える課題の本質を捉えて解決に取り組むため、産学官の異分野人材によるチームづくりを進める必要がある。
- そのため、立場や視点の異なる産学官の関係者による森林産業の抱える課題の本質を捉え直すプログラムを実施し、イノベーション人材創出を推進した。

事業内容

1 森林産業イノベーション人材創出モデル事業

- (1) 地域プレイヤーと大学生等による地域森林産業の魅力や課題の深掘り
 - (2) 地域プレイヤーと異業種参画者による山のダイゴミプロジェクト推進
- 【事業費】9,991千円（うち譲与税4,091千円）

【実績】

- (1) 大学生や企業人材の視点による地域森林産業の魅力や課題の分析
 - ・林業ツアーの開催（2回）
- (2) 山のダイゴミプロジェクトの推進
 - ・森林産業の背景や山の価値の再発見につなげる未利用材を使ったプロダクトの制作、展示会の開催

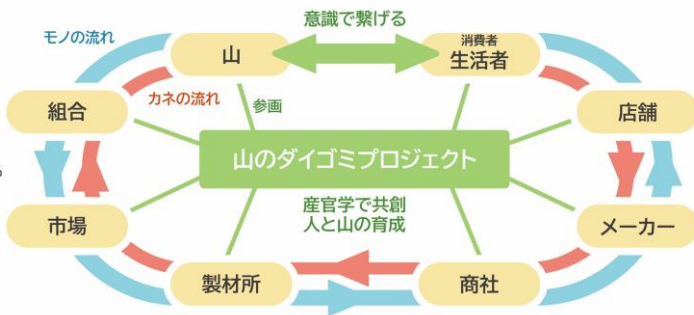
未利用材活用で地域と都市部を繋げる『山のダイゴミプロジェクト』

森林産業の各過程で生まれる未利用材を活用したプロダクトを市場に流通させるとともに、消費者向けに林業ツアーを実施することで生産者（山）と生活者を繋げるプロジェクト。

現状
モノ・カネの流れが
一方通行



目指す姿
山と消費者が繋がる
繋がりが循環する



工夫・留意した点

・従来、森林産業は、サプライチェーンを一気通貫した関わりが少ないが、イノベーションを推進するには産業全体のサプライチェーンを意識した取組を行う必要があるため、造林・素材・製材・建築のそれぞれの業界に関連する企業から参画している。

・消費圏の大学生やデザイナー等が参画し、産業外からの視点を得て、森林産業の課題や魅力を捉え直すことができる仕組みとした。



林業ツアーの実施



展示会の実施

基礎データ

①令和6年度譲与額：200,856千円	②私有林人工林面積（※1）：230,240ha
③人口（※2）：1,069,576人	④林業就業者数（※2）：3,587人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より